

渡辺復興大臣の動き

2月12日「新しい東北」復興・創生の星顕彰 顕彰式



顕彰式にて



受賞された方々との意見交換にて

渡辺博道復興大臣出席のもと令和4年度「新しい東北」復興・創生の星顕彰の顕彰式が仙台市内で開催されました。今回は被災3県の10団体が受賞。宮城県からは、IT技術を活かして新しい漁業に取り組み地元企業の生産性向上と産業活性化に貢献した「アンデックス株式会社」。自然災害などのBCP対応として沿岸部と内陸部に製造拠点を分割し、地元資源を活かした新しい新商品を多数開発した「株式会社木の屋石巻水産」。防災・震災学習プログラムを観光メニューの一部として取り入れ、観光客誘致、地域物産品の宣伝などを実施することで地域振興に貢献した「一般社団法人南三陸町観光協会」の3団体が選ばれました。顕彰式後には、選定委員会委員長等のほか、各県の連携復興センターの代表者も加わり、受賞された団体の代表の方々と今後の復興・創生に関する意見交換を行いました。

渡辺復興大臣の動き

3月11日東日本大震災追悼行事



祈りの場にて



石巻市慰霊碑にて



市民活動拠点にて



「がんばろう！石巻」看板前にて

渡辺博道復興大臣は石巻南浜津波復興祈念公園を訪問し、齋藤正美石巻市長とともに国営追悼・祈念施設「祈りの場」、「石巻市慰霊碑」及び市民活動拠点の献花台にて献花・黙とうを捧げました。渡辺大臣は公園が整備中の5年前にも現地を訪問しており、市民活動拠点に設置されている「がんばろう！石巻」看板が震災伝承の大事な役割を果たしているとコメントしました。



宮城県庁にて



東日本大震災石巻市追悼式典にて

小島敏文副大臣は、宮城県庁にて献花・黙とうを捧げた後、石巻市で行われた東日本大震災石巻市追悼式典に出席しました。小島副大臣は、式典で「震災から12年が経ち、住まいの再建や復興まちづくりがおおむね完了し、復興事業がその役割を全うできるよう総仕上げの段階に入っていますが、被災者の心のケアや水産加工業の売上げの回復、移転元地等の活用などには引き続き取り組んでいく必要があります。復興庁として今後も現場主義を徹底し、被災地の皆様に寄り添いながら全力で取り組んでまいります」と追悼のことばを述べました。



仙台市 勾当台公園にて



塩竈市 千賀の浦緑地にて



多賀城駅前公園にて



名取市役所にて



亘理町役場にて



岩沼市 千年希望の丘相野釜公園にて

東日本大震災から12年目（13回忌）にあたる今年は、新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和されたこともあり、東日本大震災追悼行事が各市町で行われました。県内では**5市町**（仙台市・塩竈市・東松島市・石巻市・気仙沼市）で追悼式典が開催されました。その他の市町では**自由献花**として献花台が各地に設けられ、多くの方々献花・黙とうを捧げました。岩沼市では東日本大震災から12年となるのを前に、慰霊碑前に市内の震災犠牲者数と同じ181基の灯籠を並べて、祈りをささげる「希望の灯火」が10日行われました。

【編集後記】

◇今回は渡辺復興大臣の顕彰式出席の記事と、各市町の3・11追悼行事の記事を掲載いたしました。震災から12年経過し、甚大な被害を受けた被災地のハード面の復旧・復興はほぼ完了していますが、心のケア、コミュニティ再生、産業・生業の再生、移転元地の活用などまだまだ残る課題の解決に向けて復興庁として全力で取り組んでまいります。

◇昨年度に比べ、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限も緩和され、大臣・副大臣が被災地を訪問する機会が多くなりました。復興庁では、現地主義を徹底し、地域の皆さまや自治体の声に耳を傾けながら、復興の加速化に努めているところです。

（支所次長 齊藤）